

## 近世戒律復興・自誓受戒の律僧関連資料寺院調査

高松世津子 文化人類学日本思想史分野・専門 博士後期課程3年

**研究背景と課題** 近世戒律復興運動は、鎌倉後期・叡尊の行った自誓受戒や戒律復興運動を学んだ真言系の俊正明忍らにより近世初頭（1602年）に始められた。そしてその後、平等心王院西明寺・大鳥山神鳳寺・青龍山野中寺の律三僧坊で近世期（野中寺では明治25年まで）自誓受戒を継続し、三僧坊の末寺も活動拠点となり戒律復興を進めた。また17世紀末までには日蓮・臨濟・曹洞・天台・浄土の各宗派に戒律復興が伝播して、それぞれにまず〔叡尊一明忍〕の自誓受戒を行う僧が現れ、その後各宗派で独自に展開した。さらに1650年代以降に大陸の仏法を伝えた黄檗僧が、各宗派律僧らとも交流し影響を及ぼし合った。先行研究については、律三僧坊の各寺院資料リストが稲城信子代表『日本における戒律伝播の研究』（2004）に掲載されており、また代表的な律僧の事績や概要については上田霊城・藤谷厚生らの研究で明らかにされた点も多い。しかし、律三僧坊資料の内容はほとんど分析されておらず、近世期仏教史研究における課題の一つだといえる。さらに、別受戒相承のために大陸渡航を目指した明忍は、渡航がかなわず対馬の地で三年後に遷化した。当時の対馬の状況や明忍の足跡、明忍墓塔の塔銘筆跡と現状確認、日蓮宗不受不施派の日奥との交流など、当地での調査が必要である。

**調査の内容** 当プロジェクトでは、近世前期の戒律復興の動向を明確化するために、以下を行った。

【①西明寺資料調査】明忍顕彰の中でも重要な、黄檗僧月潭道激筆とされる一連の資料、『檳尾山平等心王院故弘律始祖明忍和尚行業曲記』（1687）・『檳尾山西明寺俊正明忍律師塔銘』・『西明寺梵鐘銘』の原本、また在対馬の臨濟僧による『対州諸師和韻等』、日蓮宗草山律の深草元政撰『檳尾山平等心王院弘律始祖明忍律師行業記』（1664）など、17世紀後半の他宗僧による資料を中心に写真撮影した。さらに、『明忍律祖対州塔所之図』『覚（明忍塔造建一件）』など、明忍終焉の地である対馬での墓塔建立に関わる資料の撮影も行った。

【②黄檗宗万福寺の月潭道激自筆資料調査】萬福寺黄檗文化研究所蔵の黄檗僧月潭自筆掛軸などの写真撮影と分析により、『檳尾山平等心王院故弘律始祖明忍和尚行業曲記』等と同筆であることが明確化できた。つまり、黄檗僧月潭は西明寺律僧と交流を持ち、その文才と筆跡の美しさにより依頼されて『曲記』を執筆、また西明寺梵鐘や対馬海岸寺近くに所在する明忍墓塔の、銘文と文字を担当したことを確認した。さらに、月潭による数多くの他資料も確認した。

【③対馬海岸寺と明忍律師に関わる史跡・資料調査】対馬海岸寺では、明忍位牌や歴代住職位牌を確認、また近くの中腹にある明忍墓塔を確認した。さらに対馬での足跡を辿る目的で、交流した日蓮宗不受不施派日奥の居所跡等にも行き、対馬教育委員会担当者取材、対馬市図書館での地域資料複写なども行った。

**調査成果** 西明寺で始められた戒律復興が、僧相互の個人的交流により伝播したというその過程を明確化できる資料等を確認・撮影できた。例えば、西明寺蔵資料と黄檗文化研究所蔵月潭自筆資料の撮影・分析により、西明寺蔵の対象資料が月潭の真筆であると確認でき、それに関する論文を関口静雄氏と共著で2021年9月に発表した。また臨濟僧を中心とする17～19世紀の明忍顕彰の動向を知る資料も撮影し、論文を2022年7月に関口氏と共著で発表した。対馬調査では、地域文献での明忍関連情報や海岸寺での聞き取り、明忍墓塔の位置と現状確認、明忍自筆書簡（以前の調査で撮影）でその交流が記される不受不施派日奥の居所の位置や足跡、現状の確認等ができた。本内容の論文（単著）は現在査読中である。

**今後の課題** 以上の調査成果を、博士論文において発表する。特に、対馬での明忍の思想・信条や生活、また律三僧坊や他宗派の律僧、及び黄檗僧との相互交流について明確化し、近世前期の戒律復興の伝播と事績をなるべく詳細に解明する。それにより、近世前期仏教史、さらに言えば江戸時代前期の社会における戒律復興運動の意味づけを試みたい。